

する。

Si, Mn, S, Ti およびアルカリの関与する気-液および液-液反応, レースウェーにおける燃焼反応, 脱 Si などの酸化反応および耐火物の関与する反応について, 平衡論ならびに速度論的データを総括し, 関連する操業解析例についても触れる。

#### 7) 製鉄工程のシステム化 才野 光男

製鉄部門は一貫製鉄所内でエネルギー面とコスト面での役割りが大きいので, 最近の減産下で企業収益の向上のためには, 高度成長時代に要求されたものとは異なつたシステムニーズが強くなつている。かかるニーズに対応するために工程別に開発されたシステムを製鉄所全体あるいは企業全体のシステムとしてリフレッシュすることが各社で進められている。このトータルシステムを主体に, 原料ヤード, コークス, 焼結, 高炉等の製鉄工程別のシステム化の経緯と現状及び将来展望について述べている。

#### 8) 製鉄の新プロセス技術の展望 西田礼次郎

高炉によらざる製鉄技術としての還元鉄の製造と熔融還元製鉄及びその関連技術であるスクラップ溶解法についてその技術の発展経過並びに現状についての技術的特徴, 問題点を明らかにし合わせて, マテリアル並びにエネルギーバランスに基づく考察を行い, 今後の技術発展方向を展望する。

IV 聴講無料 (事前の申し込み不要)

V テキスト代 4,500 円

VI 問合せ先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

### 新刊紹介

## 「設備診断技術ハンドブック」刊行のお知らせ

本会共同研究会設備技術部会において, 昭和 58 年より企画・編集を進めてまいりました「設備診断ハンドブック」が本年 12 月に刊行されることとなりました。

今日, 日本の産業界に於ては設備の自動化・高度化が進み, 鉄鋼業のみならず全ての業種で設備が生産活動の主役を果すようになってまいりました。したがつて設備の機能精度を維持するメンテナンス業務は極めて重要なものとなつてきております。かつて「予防保全」というメンテナンス理論が日本に導入されて以来, メンテナンスの理論・活動・システム等は, その重要性の認識とともに発展してきましたが, その経済性および信頼性を追求した結果として, 近年「設備診断技術」が適用されるようになってまいりました。

本書は, 本会設備技術部会を中心に第一線の執筆陣によつて, 設備診断技術の現状と今後の動向について, 鉄鋼業はもとより, 各種機械・電気設備等広範な業種にわたつて実例を豊富に盛り込み集大成したものであり, 本技術の実践的なハンドブックとして広く御活用いただけるものと確信いたします。

本会では, 下記のとおり本書を購読される会員に特別価格を設けることといたしましたので, ご希望の方は官製葉書にて本会宛お申込み下さい。

記

### 「設備診断技術ハンドブック」会員特価要項

1. 発行時期・体裁 昭和 61 年 12 月下旬発行, B5判 350 ページ
2. 会員特価 8,800 円 (定価 9,800 円) 送料出版社負担
3. 申込方法 官製葉書にて, ご購入部数・送付先ご住所・ご氏名をご記入のうえお申込み下さい。(図書は丸善より振込用紙とともに発送されます)
4. 申込先 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階 (〒100)  
(社) 日本鉄鋼協会 庶務課 (担当 水野)
5. 支払方法 出版社より本書発送と同時に振込用紙をお送りいたしますので指定口座にお振込み下さい。
6. 注意事項 会員特価は一般書店では取扱いをいたしませんので必ず本会へお申込み下さい。  
なお, 発送等に関する問い合わせは下記へ直接お願いいたします。  
(問い合わせ先) 丸善(株)出版事業部編集室 電話 03-272-0393 (担当 石寺)

(内 容)

1. 設備診断技術の概要
2. 回転機械診断技術
3. 静止機械診断技術
4. 電気設備診断技術
5. 油分析による診断技術
6. 鉄鋼における設備診断システム
7. 診断のための資料